

所報

No. 37

平成3年6月

広島市教育センター

教育随想

広島市教育センター所長 小西清彦



去る4月1日、私を含む11名の新職員は、三分咲きのサクラと当教育センターの職員に温かく迎えられて着任しました。

以来、付近の山々の草木の芽ぶきや次々に咲き競う花々に目をうばわれたり、メジロやウグイスなどの小鳥の鳴き声に心はずませたりしています。たまにはタヌキが教材園に姿を見せることもあり、市街地に接している当教育センターの周りに意外に多くの生物が生息していることを知りました。

元来、瀬戸内はシイ、カシなどの暖温帯樹林やアカマツ林の多い地域ですが、近年のマツ枯れ現象の影響で当教育センター付近の山もアカマツ林から雑木林へと様相が変わってきています。密生するアカマツ林の下は、年中日光が届きにくく、下草もあまり育たないものです。雑木林の中は、ほどほどに光が届き、落ち葉なども豊富で、低木や草なども生い茂りやすく、さまざまな食草や木の実などが、次々に供給できます。そのため小さな生き物たちにとっては住みやすくなっています。

生物のこうした小さな営みをみると、春の芽ぶきや開花、産卵や孵化などの時期は、生

物の種類によって違うだけでなく、同じ種類でも日照などの環境や個体のもつ特性によって微かな違いがあることがわかります。そして、このことはその環境の中で育まれるさまざまな他の生物にとってもきわめて重要な意味があるように思えます。

すべての植物が同時に発芽し、同じように育ち同じように結実するというのでは、わずかな環境の変化で育成が妨げられ、食物連鎖をも崩しかねません。一度や二度の環境の急変を乗り越えて繁栄していくためには、発芽や開花、結実の時期がふぞろいであるというような個々の生物のこうした特性が重要な役割をもっていると考えられます。

学校教育において、すべての子どもに同一のねらいや内容を指導する場面は多いものです。それは指導の効果が同時に現れることを目指すのではなく、できるだけ多様な方面で、できるだけ長期間にわたってその効果が現れることを目指すべきではないでしょうか。

多様な人間を育成することも今後の教育において必要なことではないかと思う今日このごろです。

特集 個性を生かす教育

個性を生かす教師のかかわり

共同研究「個性を生かす学習指導に関する研究」から

広島市教育センター指導主事 西村達男

本研究は、学習指導において、個性を生かす指導の在り方を明らかにすることを旨として、平成2年度から2か年取り組んだものである。

ここでは、その研究の一部を述べる。

個性の捉え方

「個性」の概念は多様な捉え方をされているが、文献からそれぞれの捉え方を整理すると「違い」「固有性」「望ましさ」「ユニークさ」の四つの内容を備えている(図1)。

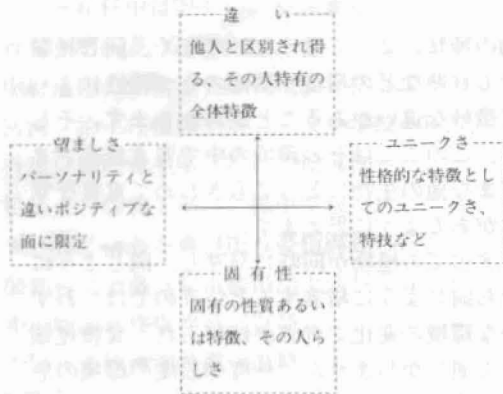


図1 個性の捉え方

また、個性は、場面に応じて形を変えて表れ、変化していくもの(動的)であり、人とかかわり合う中で自己の価値を感じることによって生まれてくるもの(内発的)であるという性質を持っている。従って、子どもの個性を理解するためには、次のような見方に立つことが必要である。

- ① 個性は、子どもの全体としての特徴である(総体である)。
- ② 個性は、活動につながる具体的なものである。

③ 個性は、その子らしい生き方として統合させるものである。

つまり、個性は、個人同士の違いを量的に比べるべき特徴ではなく、子どもの質的な全体として捉えるものである。また、際だった特徴は捉えられなくても、その子どもの行動の仕方そのものが、かけがえのない個性であると捉えられる。

情意的側面の重視

学習を子どもの内的な過程として整理したものが図2である。

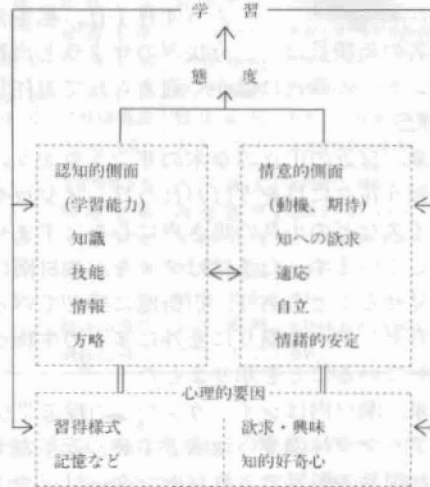


図2 学習の内的過程

学習において、子どもは自己の欲求・興味、知的的好奇心に基づいて活動することによって主体的になる。欲求・興味、知的的好奇心に基づいた学習活動は子どもにも情緒的な安定をもたらし、それに支えられて、自分なりを表現をしようとする自立心が触発される。更に、環境と積極的にかかわろうとする適応力が誘発され、知への欲求が高められる。そして、

このような情意的側面は、認知的と融合して個性的な学習態度を形成すると考える。

本研究では、子どもが自己が発揮する主体的学習を追求するため、情意的側面から個性を捉えた。

学習における個性の発揮

学習活動に参加し、自分なりの学習を進めているありさま、即ち学び方が学習における子どもの個性である。この個性は、熱中して学習に取り組むときに最も表れやすいと考えられるが、具体的には、表情、ことば、動きという形で表現される(図3)。

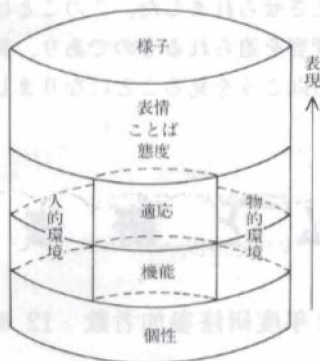


図3 個性の表現の考え方

学習における個性の把握

学び方に働く個性は、行動の特性となって現れる。本研究では、子どもの個性を具体的に捉えるために、学習活動で表現される子どもの表情、ことば、動きに注目し観察・記録し、考察を行った。図4は、第3学年図画工作科「工作」の授業観察記録の一部である。

克明に観察してみると学習において子どもの内部では様々な心の動きが目まぐるしいほどおこっていることが捉えられてきた。そして、それらの動きは教師の学習の流れの予測を越えていることが多く、子どもの情意面の重要性を改めて認識させられた。



子どもの行動	行動の意味
教師に声をかけられ、「たんたん」と言う。	 筆入れをききと置く。 何度も繰り返し、結論を出す。それでもまた試みる。
繰り返し筆入れの置く位置を変えて、立てようとする。	
「立った」と声をあげ、立ち上がって喜ぶ。	 紙に見て平行に筆入れを置く。 努力したことで、結果が得られたら、おおいに喜ぶ。 喜びを表現してくてたまらない。
まわりの子どもに紙が立ったことを知らせようとする。	
指をくわえて、キョロキョロする。後ろを見る。	

図4 A児の行動の一部

教師の受け止め

以上のように子どもの個性を捉えてきたとき、子どもの個性を生かす指導を進めるには、まず、教師が子どもの個性の多様で複雑であることに目を向ける必要がある。個性を生かす指導の出発点は、

- 子どもの喜び、悲しみなどの共感的理解
- 子ども自ら成長することへの信頼
- 子どもの多様化、独自性の尊重
- 子どもの変容性、全体性の理解

などである。指導の出発点に立つためには、学習のそれぞれの場面で子どもの行動を観察し、その個性を見抜く力を教師が身につけなければならない。

また、教育は本質的に教師と子どものかかわりであり、この意味では、教師自身が個性発揮を促す生き方をしている、即ち教師の個性が問われてくる。

教師は子ども一人ひとりの思いや願いを理解するとともに、それを実現するための内容や方法、過程などの特性を理解する必要がある。更に、子どもが自分のよさや可能性を発揮して進んで学習することを温かく支援することが大切である。

幼稚園教育講座を受けて

広島市立温品幼稚園

教諭 都甲 得恵

昨年度は新教育要領実施の年で、あれこれ試行錯誤しながら過ごした一年でした。そんな日々の中、教育講座を受講しました。講師の仲渡規矩子先生が「教師が環境を受けとめる感性をいかにみがき、幼児とどのように関わっていくかが一番重要になってくる。」と話されたことが心に残りました。子どもの持つ素敵な感受性や自由な発想を大事にしながら、子どもがますます心豊かに育つよう研修を重ねていきたいと思っています。



国際理解教育を受講して

広島市立飯室小学校

教諭 立川 忠征

昨年「国際理解教育の現状とその課題」を受講しました。今世界中の国々が地球レベルで物事を考えようとしています。個性豊かに生きるために、授業でどんな実践をするのか具体的な示唆を得ることができました。また世界の人々とどういにかかわりを持ち、国や文化の違いを超えて人間としてどのように生きるか考えさせられました。このことは、私の内面の変容を迫られるものであり、新しい視点で海の向こうを見ることになりました。

私 と 研 修

平成2年度研修参加者数 12,855名

学校カウンセリング・ワーク ショップに参加して

広島市立安西中学校

教諭 炭本 勝

以前に参加した同僚から「人間観が変わるぞ」と言われ、期待と不安で一步を踏み入れました。3泊4日の期間中、参加者の教育に関する考えや実践等を聞き、私の日頃の実践を反省したり、自信を深めたりしました。特に生徒や保護者と接する際に、相手の立場や気持ちを考えることの大切さを学び、今生かしています。長い4日間という気はしましたが、ぜひ一度は参加してみる価値はあると感じました。

社会教育新規担当研修講座 を受けて

広島市井口公民館

主事 石田 章

去年、初めて公民館に勤務することになり社会教育新規担当者研修の案内をいただきました。社会教育については、以前講座を受けた経験もあるので迷いましたが、今一度初心に戻ったつもりで受講しました。講座で学んだことを自分なりに味付けをし、まわりの方々の助けを得ながら、何とか無事に仕事を遂行することができました。今後また、このような研修の機会があれば積極的に参加し、仕事に生かしたいと思っています。

教育実践基礎講座(4)

主体的に取り組む学習のために

—音楽科の学習を例に—

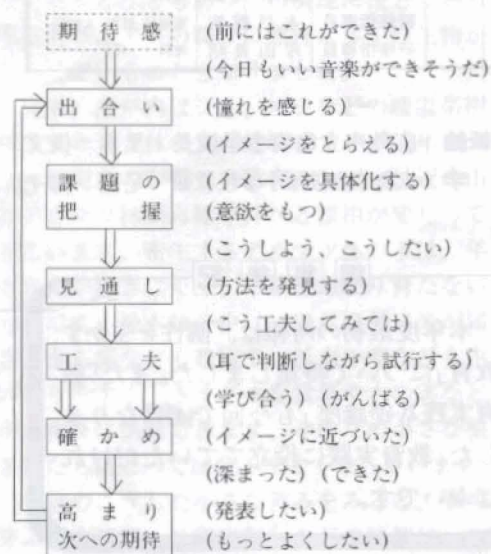
広島市教育センター指導主事 井崎 明

子どもたちが主体的に取り組む学習をするためには、どのような配慮が必要なのでしょうか。音楽科の表現の学習を例に、そのポイントを考えてみることにします。

主体的な表現活動の学習過程

音楽の学習を「歌がうまくなる」「楽器がひけるようになる」といった技能面からのみとらえれば、教師の指示に従ってこつこつと練習を積めばそれでよいこととなります。しかし、個性的、創造的な学習を通して、音楽に対する豊かな感性を培うためには、子ども自身の表現したい気持ちを大切に、子どもが主体的に取り組めるよう、教師の側で配慮する必要があります。その配慮の一つとして学習過程の在り方を考えてみます。

主体的に取り組める学習とはどんなものでしょう。一つのモデルとして下の図のような組み立てが考えられます。学習の主体である子どもの立場にたつて構想したものです。



教師は、自分の音楽を子どもに教え込もうとするのではなく、子どもがこの過程を歩めるよう導くのが本来の役割だと考えます。指導に当たっては、適切な教材を選び、提示の仕方を工夫し、子どもにあった助言を与えるなどさまざまな細かい配慮が必要になってきますが、ここでは、一般的に配慮したい事項を2項目にまとめてみました。

配慮したい事項

① 安心して自分を出せる学級の雰囲気

音楽の学習、特に表現活動は、常に周りの教師や友だちとかかわりあっているという特徴を持っています。自分の歌声や演奏は常に周りの人に評価され、逆に、自分も知らず知らずのうちに周りの人を評価し、学びあいながら活動しています。そういう中で安心して主体的に活動できるようにするためには、教師自身が子どもの表現を十分認める姿勢を持つことで重要となります。教師に認められることによって、互いに認め合えるあたたかみのある雰囲気が生まれてくると考えられます。

② 個に応じた指導

一人ひとりが主体的に活動するためには、個人差に応じる配慮も必要になってきます。音楽における個人差は、技能の差だけでなく、技能を修得する仕方や音楽と出合ったときの感じ方にも、また「こう表現したい」というめあてやイメージにも表れます。したがって、一人ひとりに表現のめあてを確かに持たせ、その子にあったやり方で取り組ませ、またその子なりの向上を評価することが必要です。

音楽には多様な表現があって、それぞれによさがあります。多様なよさに気づかせることで、主体的な学習をさらに活発にすることができるものと考えられます。

教育センターひろば

教員特別研修生 (平成3年4月～9月)

国語科教育：関英治教諭（仁保中）
算数科教育：行廣秀美教諭（比治山小）
図画工作科教育：藤原逸樹教諭（口田小）
技術家庭科教育：畠山洋二教諭（宇品中）
教育工学：川本真教諭（五日市小）

教員特別研修研究員

(平成3年4月～平成4年3月)

校内研修：北山英治教諭（祇園小）
校内研修：井上まち子教諭（井口台中）

職員の異動

* 離任

～在任中はおせわになりました～
真金 明所長（退職）
中村道德主任指導主事（市教委指導課へ）
宮河 治主任指導主事（江波小学校へ）
升尾好博指導主事（市教委指導課へ）
松浦克行指導主事（仁保中学校へ）
東 和子指導主事（市教委指導課へ）
服部和之主事（都市整備局土地対策課へ）
中田昭吾研修指導員（退職）
山田年康教育相談員（退職）

* 就任

～どうぞよろしく～
小西清彦所長（市教委教職員課から）
上野琢司次長（市教委指導課から）
江田英俊指導主事（鞆町中学校から）
正坊地武生指導主事（口田東小学校から）
宮脇いち子指導主事（長束幼稚園から）
木村正信指導主事（牛田小学校から）
中尾秀行指導主事（山本小学校から）
沖増正和指導主事（日浦中学校から）
橋本佳和主事補（新規採用）
用品直義教育相談員（市教委指導課から）
杉山武郎研修指導員（前祇園東中学校長）

職員・分掌

部	事業等	職名	氏名	担当業務
		所長	小西清彦	所務総括
		次長	上野琢司	所務管理・執行
管理部	庶務・総務	主任主事	畑野孝治	部内総括、施設設備の維持・管理
		主事	保木早苗	公印、給分、文書処理、経理等
		主事補	橋本佳和	予算、決算、経理等
第一研修部	教育相談・広報	主任指導主事	民安和昭	部内総括、算数科、数学科
		指導主事	松田了二	生徒指導、教育相談、同和教育
		指導主事	宮脇いち子	幼稚園教育
		指導主事	木村正信	特別活動、社会教育
		指導主事	三原裕隆	生徒指導、教育相談
		指導主事	中尾秀行	教育相談、障害児教育
		教育相談員	末森一男	教育相談
		教育相談員	久保田 澄	教育相談
		教育相談員	用品直義	教育相談
第二研修部	研究・教育関係	主任指導主事	福原絃治郎	部内総括、外国語・英語科、国語科
		指導主事	財津伸子	国語科
		指導主事	正坊地武生	教育工学、視聴覚教育
		指導主事	吉竹邦昭	社会科、道徳
		指導主事	沖増正和	国際理解教育
		研修指導員	杉山武郎	教育工学、視聴覚教育
		図書資料室嘱託	大下千賀子	図書資料関係事務
第三研修部	研 修	主任指導主事	西川勝士	部内総括、理科
		指導主事	西村達男	図画工作科、美術科
		指導主事	江田英俊	家庭科、技術・家庭科
		指導主事	井崎 明	音楽科
		指導主事	越智文嗣	理科
		研修指導員	木戸義明	家庭科、技術・家庭科
		研修指導員	片山貞昭	理科

表紙絵 広島市立亀崎中学校長 里本 俊文
題 字 広島市立段原小学校教頭 足立 柳子

編集後記

本年度最初の所報は、「個性を生かす教育」について特集しました。また「教育実践基礎講座」も今回で(4)になりました。教育実践に役立てていただければ幸いです。